

AERA

アエラ

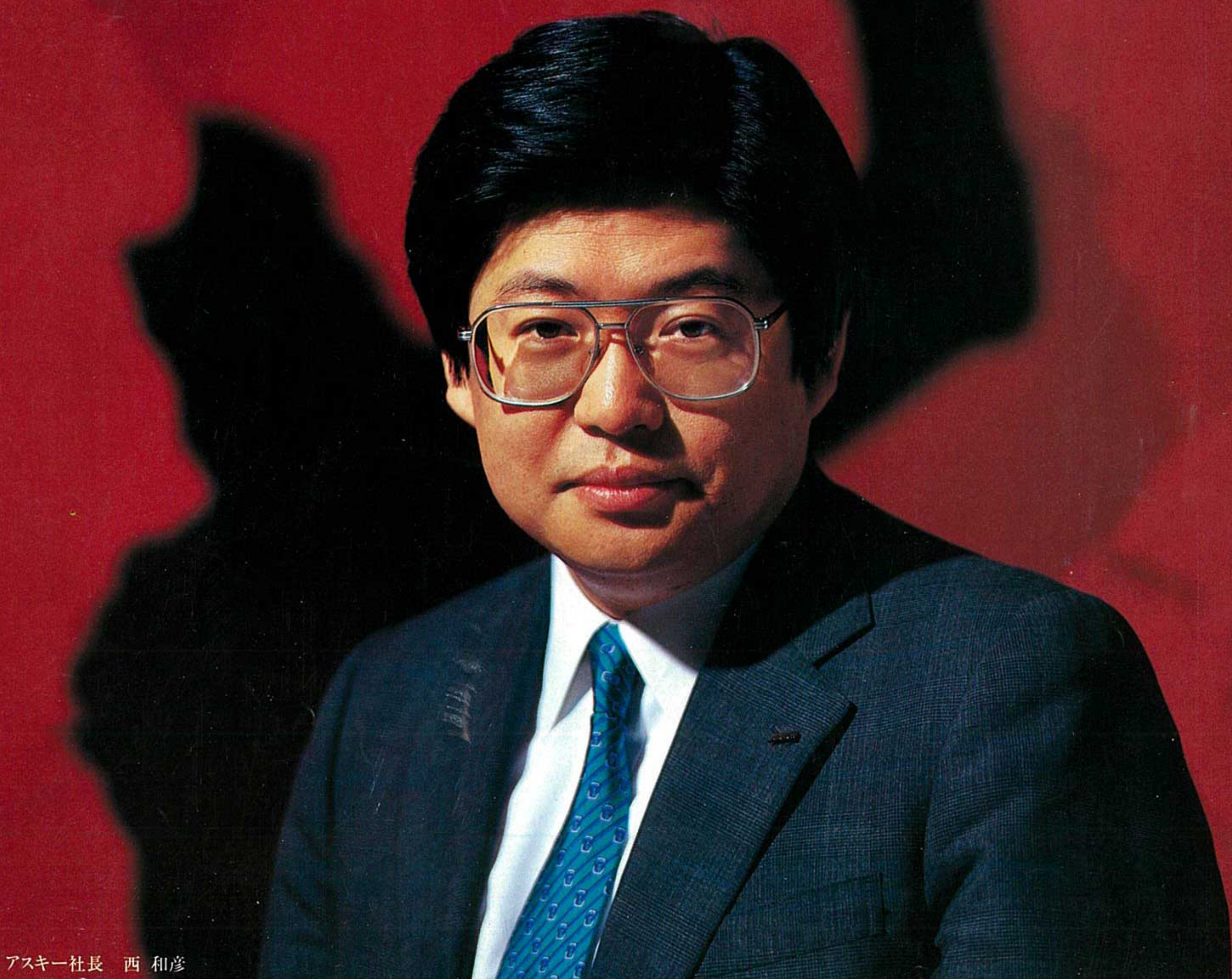
No.9

2.27

定価310円

昭和63年6月10日 第3種郵便物認可
毎週火曜日発行通巻96号

妊娠中絶闘争荒れる米国
コカイン日本上陸作戦



アスキー社長 西 和彦

「僕は笑ってる写真がいいなあ。ニヤニヤしてるやつ。へ、へ、へ、へ、という感じで撮ってもらえれば」

撮影終了後、記念に坂田さんと一緒に写真を撮ってもらいたいと要請。「こんなの初めてだなあ」と照れる坂田さんと、セットの台に乗った。

撮影中は、こんな具合で、終始、「へ、へ、へ」の感じだったが、いざ、インタビューをしてみると、「へ、へ、へ」どころではない。

明らかに「むっ」としてるなあと思っただのは、一回ほど。

「西さんが以前、パソコンの統一規格として提唱したMSXは、結局、失敗したんじゃないですか」と、聞いた時と、

「ところで、ご結婚なさってるんですか。お子さんはいらっしやいますか」と、尋ねた時だ。

「うちの会社はプライベートなことは話をしないことになってる」

で、「結婚」はおしまい。

失敗の二つ三つあって当然

「MSX」については、

「これまで、三百万台も売れている。これで、失敗といえますか」

いや、その、NECのPC98と任天堂のファミコンの挟み打ちにあったんじゃないですか。MSXといっても、知らない人も多いと思います。「PC98と競争しているもんでもないし、ワープロとしても使えるんだから、ファミコンと比べないでほしい」

●アスキー株価は半年で三倍以上

パソコン時代過熱をながめる パソコン界鬼才の冷めた眼



西 和彦さん

にし・かずひこ

アスキー社長

1956年2月10日、神戸生まれ/75年 早稲田大学工学部機械工学科入学（のち中退）/77年 郡司明郎（現会長）、塚本慶一郎（現副社長）両氏とともにアスキー出版を設

立、マイコン雑誌「ASCII」を創刊/78年 アスキー出版副社長就任。米マイクロソフト社と提携/79年 同社極東担当副社長に就任/82年 アスキー出版をアスキーに社名変更/83年 パソコン統一規格としてMSX仕様を開発・提唱/86年 マイクロソフト社との提携解消/87年 アスキー社長に就任/89年 同社の株式を店頭公開。

を越す企業に成長した。昨年九月には、パソコンソフト業界としては初めて、株式を店頭市場に公開したが、初値五千二百二十円。その後も、株価はウナギのぼりで、半年の間に、三倍以上にはね上がっている。

「新人類企業の誕生」「ベンチャーの雄」「パソコン業界の天才児」「若きミリオネア」

アスキーと、創業者で六十八万株を持つ西さんのまわりは、さまざまな称賛の言葉でいっぱいだ。

パソコンよりテレビ電話

西さんがこれまでに受けた取材を「科学」と「経済」のジャンルに分けると、科学の方が断然、多いそう。では「科学」から。

「二〇五〇年ぐらいまでは、コンピュータは進歩していく。自動車もそうですが、ああいうものは、できてから百年ぐらいはもつ。しかし、パソコンが一家に一台という時代にすぐなる、ということではない。二〇五〇年に向けて、徐々に年率数%程度で伸びて行くんじゃないでしょうか」

「パソコンで、世の中がバラ色になるというような言い方があるけど、いま、ワープロが普及しても、バラ色になんか、なっていないでしょ。ちょっと、みんな冷えた方がいいと思いますよ。これから爆発的に普及するのは、テレビ電話や携帯電話だと思う」

続いて「経済」。

「ダボハゼ的に何でもやっていたら、その年はいいかもしれないが、また下がる。堅く伸ばしていくつもりです」

編集部 鈴木啓一

しかし、もし、ファミコンがなかったら、MSXもうまくいったのに、とは思いませんか。「過去に戻って、仮定の話をしても意味がない」

「十やったら、二つや三つは失敗するが、マスコミはそれを騒ぎ立てる。うちの会社は、ずっと順風満帆にやってきた会社かという、そんなことはない。しかし、これまでやってこられたし、利益も出してきている。そういう

意味では、普通の会社です」西さんは「普通の会社」を強調した。しかし、世間はそうは見えていない。早大理工学部在学中の七七年、西さんが仲間二人とともに作った会社は、今や、売り上げ二百五十億、社員五百人